

安保関連法案！またも強行採決！

政府は、安全保障関連法案について衆議院での強行採決に続いて参議院特別委員会・本会議でも強行採決を行い、本日未明、数の力で安全保障関連法案を可決・成立させました。私たちは憲法9条を形骸化する安全保障関連法案に断固反対し、これからも安倍政権が進める「戦争をする国」づくりに反対していきます。

安全保障関連法案は、多くの人から「憲法違反！」と指摘を受けてきましたが安倍政権は「いずれ分かってくれる」と十分な説明もせず数の力で押し切ってしまいました。

戦後70年、憲法9条のおかげで日本が同盟国の戦争に巻き込まれたり、自ら戦争行為をしかけることも、戦争により死者を出すこともありませんでした。「日米安保が抑止力になってきたからだ」と反論する人がいますが、日本が「戦争をする国」に近づいていることは間違いありません。自衛隊のPKOへの参加、イラクへの派遣、他国籍軍との共同軍事演習の拡大、武器輸出三原則の緩和（防衛装備移転三原則）、武器の共同開発、そして今回のアメリカやオーストラリアの同盟国の戦争に日本も加わるという集団的自衛権の行使容認と戦争をする国にして行こうというものです。戦争への歯止めは、私たち国民一人ひとりの意思、行動にかかっています。

諦めず、騙されず、ねばり強く反対の声を広げて行こう！！

元東京都知事の石原慎太郎氏は10日夜のBSフジ番組で、8月30日に国会周辺で行われた安全保障関連法案に反対する大規模集会について「やがて雲散霧消する集団でしかないね」と切り捨て、「非常に全く無意味な感じだ。なんの力もない。デモそのものは空気の結晶だ」と指摘したそうです。また、JR東海の葛西名誉会長は「主権国家は自衛のために必要な限度において武力を行使できる……自衛権は集団的・個別的を問わず憲法の前提となっている」（9月6日付、日本経済新聞）と答えています。

一方で、国会周辺に集まった多数の市民、大学生、高校生や子供連れの母親など若い世代の人たちは、雨が降る中でも「強行採決絶対反対」の声を上げていました。

集会の参加者からは「私たちは戦争に行きたくないし、人を殺したくもないんです」「法案が違憲であることはこれまでの国会審議で明らか。憲法の下、平和に暮らしてきた戦後70年の人生を崩される思いだ」と反対の声があがっていました。

戦争で犠牲になるのは私たちです。「戦争反対!」の声を広げていきましょう!